



織田信長像模本 東京国立博物館蔵
(原本は京都市報恩寺に所蔵、
東京国立博物館ウェブサイトから転載)



月岡芳年画 松永久秀武者絵
(国立国会図書館
ウェブサイトから転載)

VS

古文書から見た 戦国合戦

～私部城を巡る攻防～



両軍激突! 私部城を守りぬけ! 織田軍 VS 松永軍、戦いの行方は?

第2回は、織田軍と松永軍の戦いを見ていきます。織田信長の伝記として有名な『信長公記』『原本信長記』などの歴史資料には、その戦いの様子が伝えられています。今回は、古文書・古記録から、両軍の戦いがどのように展開し終結したのかについて迫っていきます。

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)

第2次私部城攻め (織田軍 VS 松永軍)

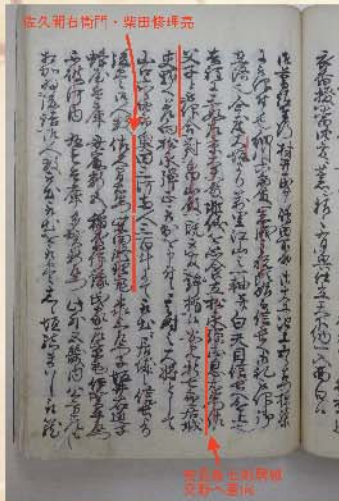
もともと信長方の武将であった松永久秀は、突然信長に反旗を翻し、元龜2年(1571)5月12日、息子の久通とともに、私部城に攻め込みます。これが第1次私部城攻めです。

翌年4月、久秀は再び私部城へ攻め込みます。『信長公記』『原本信長記』にはこの戦いについて記されています。

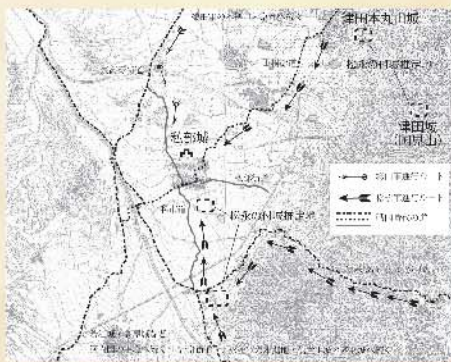
松永久秀は、息子久通、三好義継と共に謀り、私部城を攻撃しました。

松永久秀は私部城の周りに「取出」(砦)を造って私部城を攻めました。浅井長政を討伐するため、近江に出陣していた信長は急ぎ援軍を送り、信長方の柴田勝家・佐久間信盛といった名だたる武将たちがこれを防ぎ、久秀方の砦を包囲しました。佐久間氏は私部城主の安見氏と姻戚関係にあり、交野にも関わりのある人物です。砦を包囲された松永軍は籠城戦を強いられ、久秀からは風雨に紛れて命からがら脱出しました。

このように、私部城における両軍の戦いは、織田軍の勝利で幕を閉じました。



『原本信長記』の該当箇所



私部城の戦い関連地図



佐久間信盛の花押



柴田勝家の花押

松永方の「相城」

久秀は私部城の周りに砦をつくり、私部城を攻撃しました。この砦は城攻めの際、攻撃側が敵の城の向かいにつくる短期間の戦いのための城であり、「相城」や「付城」と呼ばれました。相城は、敵の反撃や援軍、物資・兵糧の搬入を防ぐためのもので、豊臣秀吉の小田原城攻めなど戦国時代に多用されました。



コラム

